



環境省・経済産業省 第3回合同会合

Climate Youth Japan

目次



- CYJの取り組み
- 気候変動に関心を持ったきっかけ
- 2050年ネットゼロに向けた課題や重要な取り組み
- 2050年ネットゼロに向けた日本の考え方・方向性

CYJの取り組み



「ユースが気候変動問題を解決へ導くことで
衡平で持続可能な社会を実現する」

- 国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)への参加
 - 例年5～6人が派遣
 - Japan Pavilionでの登壇
- LCOY(Local Conference of Youth)を共同開催
 - 環境に関するワークショップや講演会、政策提言の作成
 - 各国のLCOYで作成された提言はCOYの場で集約
 - 2024年は8/3～8/11の約1週間に渡って開催





CYJの取り組み

- Youth Council設立に向けた取り組み
 - 関連省庁や組織とのミーティング
- 省庁への政策提言や意見交換会への参加、省庁内の会議の委員など
 - 経産省 エネルギー基本計画改訂に際する意見交換会
 - 環境省 環境基本計画改訂に際する意見交換会
 - 環境教育専門会議の委員
- 地方自治体との連携
 - 所沢北高校 カーボンニュートラルセミナーへの登壇



気候変動に関心を持ったきっかけ



大気汚染や砂漠化などの環境問題に興味があった

以前から水問題や自然保護に関心があり、
大学で環境工学を専攻した

現在様々な環境問題が地球のいたるところで
新たな問題を引き起こしていることを知った

地元の富山県で
再生可能エネルギー(小水力発電)の研究を始めた

大学に入ってから有機農業に携わるようになった

バイト先で大量に食べられる商品が捨てられていた

気候変動が多くの環境問題と
密接に関わっていることを知り、危機感を抱いた。

学ぶにつれ、気候変動は無関心ではいけない
と考えるようになった。

問題の主な原因である気候変動に興味を持った。
被害を一方的に受ける生物達を保護したい。

研究を通して環境問題全体に興味を持つようになった。
地域での脱炭素事業を普及させたい。

有機農業について学ぶうちに、
自然保護や環境問題に興味を持った。

飢餓で苦しんでいる人がいることとの矛盾に対して疑問を感じ
るようになった。

2050年ネットゼロに向けた課題や重要な取組



ルールメイキング

中小企業が脱炭素や環境負荷軽減に取り組む明確な
駆動力(原動力)となるものがない。
環境問題に取り組むわかりやすい職業(特に第三次産業)が少ない。
→ルール作り(多面的サプライチェーン評価等)が重要ではないか。

システムトランジション

再エネへの転換や需要量の低減ではなく、
既存のエネルギー源の活用に固執していないか。
原子力を脱炭素に活用するならより長期的な視点での評価をしてほしい。

国民の関心

国民からの関心を集めるために情報を分かりやすく開示してほしい。
(省庁の垣根を超えたトピックごとのファイルサービスなど)
脱炭素政策について、将来を担う若者が興味を持てるような機会や
環境の提供がほしい。

2050年ネットゼロに向けた日本の考え方・方向性



GHG削減のみならず総合的な環境負荷低減が重要である。
生産から廃棄までのLCAを考えた既存制度に踏み込んだ新たな政策が必要

国際情勢を踏まえた他国に依存しないエネルギー供給と環境保全の両立

ネットゼロに向けて
教育機関(小学校から大学まで)における環境教育の義務化・推進とともに、
実際に社会を動かしている中高年に対する環境教育の場の拡充が必要